

## 第1回将来の電力需給シナリオに関する検討会に向けたコメント

(一財) 日本エネルギー経済研究所

工藤 拓毅

第1回の委員会は海外出張のため欠席となるため、事前レク・事前送付資料に基づきましてコメントを作成し提出させていただきます。

- 2050年までを射程とするシナリオを想定するにあたって、①どういった到達点を考慮するのか、②どういった影響要因を考慮するのか、という視点の整理が議論の開始段階で必要と考え、事前資料に記されたシナリオ策定の方向性を議論し、一定の方向性を定めることは重要なステップと思われる。
- どういった到達点を考慮するのかについて電力の供給力と需要の大小の組み合わせで整理するとされているが、社会的課題の重要性から脱炭素化の達成有無をシナリオの到達点とし考えることも重要と考えられるため、電力需給シナリオを前提とした場合の脱炭素化シナリオの組み込み方についても早い段階でその方向性を定めることが必要ではないか。
- 特に脱炭素化シナリオとして考えられる要素として政策的要因（炭素税やETS等）や国際的な資源価格の要因（国際的な脱炭素化の進展度合いと化石燃料、水素・水素関連エネルギーとの関係）、脱炭素化の要請による産業構造転換の有無やライフスタイルの転換など、電力需給の構造転換に大きな影響を与えるドライバーが多々存在することが考えられ、結果的に国内外の脱炭素化シナリオ（ドライバー）が電力需給を変化させるという構造とならないか。現在から将来に至る時間的視点で関連するイベントの発生時期や影響を考え、電力需給シナリオとの相互関係に留意すべきと考える。
- 委員会の目的とそれに沿った初期段階で検討したシナリオの方向性に関して、以降の検討段階においてそれらの当初想定を充足しているか適宜レビューを行い、必要に応じて軌道修正を行うといった柔軟な作業の進め方が必要と考える。

以上